

モデル事業名	地域資源を活かした持続可能なコミュニティ創造事業（通称：ゆいむすび事業）
活動団体名	特定非営利活動法人 きびつとの杜
ホームページ	http://www5.ocn.ne.jp/~kibit/
所属／ 担当者名	理事長 成 富 由 久
連絡先	電話：０９４２－９２－２０７３ Email: y.naritomi@heart.ocn.ne.jp
活動地域	佐賀県三養基郡基山町

● 活動地域の概要

佐賀県三養基郡基山町宮浦地区は、町内で世帯数が少ない中山間地区で、特に高齢化が進む一井木集落を対象としています。この地区は、農業の担い手の高齢化により遊休農地も年々増加している地区でもあります。

- (1) 人口 54名（宮浦地区：754名、基山町全体18,169名）
- (2) 世帯数 17世帯（宮浦地区：217世帯、基山町全体6,162世帯）
- (3) 高齢化率 46％（宮浦地区：21％、基山町全体19％）



【位置図】



【荒廃が進む中山間地域※】



【植林を行い整備された里山】

● 活動地域の課題

基山町宮浦地区は、町内で最も世帯数が（213世帯）が少ない中山間地区であり、農林業従事者の高齢化や担い手不足により耕作放棄地（遊休農地）や孟宗竹による山地の荒廃が進み、数年で限界集落となる可能性が高い地域である。このような状況を打開するために、2003年この地区の住民が主体となってボランティアグループを結成し、地域づくり活動を開始しました。

活動を行う中で、次のような課題が出てきました。①休耕田の利活用のための地権者の理解と協力 ②地域資源（人・モノ・金・情報・技・歴史・地勢）の再発見と活用 ③環境負荷及び経済負担の少ない活動拠点整備 ④持続可能なコミュニティのための経済活動の創出

● 活動の内容

（全体）

当団体では平成20・21年度の事業で、地域の課題である地域資源の再発見と持続可能なコミュニティのための経済活動の創出のために竹バイオマス事業、石釜作り事業、特産品作り事業を重点的に行いました。竹バイオマス事業では、最新の重機を使い労働負荷の少ない竹チップ作りを行い、地域特産品づくりのため堆肥化を実施しました。石釜作り事業では、地域の新たな魅力づくりと地域間・世代間の交流を目指して、会員の手により石釜作りを実施しました。特産品作り事業では、遊休農地を利活用するため菜の花を植え、春には黄色の花で地域の方々の目を楽しませ秋には菜種油を特産品として販売しました。菜種の採取は会員の手作業で行い、採油は専門の業者に委託し当法人のオリジナルブランドとしてパッケージ化しました。

（直近1年間の進捗）

モデル事業を終えた成果をもとに、各種事業を継続的に活動してきました。当法人がこれまで行ってきた植林活動はその範囲を拡大し、憩いの森も広がり地域の交流の場となりつつあります。また、石釜を活用した事業も着々と進んでいます。さくら祭りや植樹祭などのイベント時には、参加された方々へ石釜パン・ピザを振舞い交流を促進し、町のイベントであるJRウォーキング時には、石釜パン・ピザを参加された方へ振る舞い当法人への募金活動へもご協力いただきました。さらに、遊休農地の利活用として、菜の花を植栽し農地保全を促進し取れた菜種から菜種油を採油し、当法人のオリジナル商品として販売しました。菜種油は一番絞りだけのものを販売したため、購入者からは非常に喜ばれ予定本数を短期間のうちに販売しました。

● 活動の成果

・全体

モデル事業を実施し各種事業を行ってきた成果として、会員の中に自分たちにも十分に出来るんだという自信が芽生えてきました。一人ではなかなか出来なかったことが、活動を行い様々な人と交流することで楽しさと喜びが実感できました。また、我々の活動を町内外へ様々なメディアを使い発信することで、思いもよらぬ方から問い合わせを受け、新聞・テレビ等のマスコミにも時々取り上げられるようになりました。

ただ、自然環境保全事業は短期間に成果が現れるものではないため、日々の維持管理を持続的にを行い5年後、さらには10年後にその成果がでてくるものと期待しています。しかし、このような我々の地道な活動を地域の方も徐々に理解していただき、少しずつではありますが各種活動に参加される方が増えてきています。

・直近1年間の成果など

竹バイオマス事業で作った竹チップの堆肥を使い、会員の畑で色々の野菜作りを行ってきましたが、その成果はまだ十分に確認できていませんが、自然環境保全の取組みの延長線上として今後の活動として継続していく必要があると考えています。

石釜を使った活動としては、各種イベントで来場者へのおもてなしとして活用してきました。石釜パン・ピザを試食された方々からは、大変美味しいとの声をもらい会員も非常に励みとなっています。ただ、販売するとすると食品衛生等の問題や販売方法等の問題もあり今後の課題となっています。

特産品としての菜種油は非常に好評を得て、予定販売本数も短期間のうちに販売できました。これは、消費者の方が値段ではない昔ながらの本物を求める志向が増えてきたことと、我々の活動への理解によるものと思われます。遊休農地を活用したこの取組みも、地元の土地所有者に理解してもらい徐々に植栽面積も広がりつつあり、この活動がさらに広がってくるものと期待しています。



(植樹祭の様子)



(さくら祭の様子)

● 今後の課題及び展望

・課題

モデル事業を実施したことで、様々な活動の広がりを会員は実感することができましたし、その成果も確実に出ています。しかし、これらの事業を継続的に実施するためには、組織的に取り組む体制をさらに充実する必要があります。当法人も会員が高齢化しておりなかなか積極的な活動が進んでいません。そのためには、我々の活動に共感される方々を少しでも多く参加していただき、会員として積極的に各種活動に取り組んでいただけるよう、様々なメディアを使い情報発信していく必要があると考えています。

さらに、自主・自立した団体として活動していくために、自主財源の確保の活動にも積極的に取り組む必要があります。今回のモデル事業で実施した各種事業をより強固なものとし、持続可能な活動とするためより詳細な事業設計が必要であると考えます。

・展望

当法人ではこれまで様々な活動を実施してきており、会員もこれらの活動が実現可能なものと確信しています。これまでの活動を実施することにより、目に見えて地域の環境が良くなってきていることを実感しています。

今後は、これらの活動が持続可能な活動となるように、この地域の特性を生かし資源を有効に活用しながら、少しずつではありますが、確実な活動として展開していきたいと考えています。

● その他(自由記述)

環境保全活動は、短期間に結果を出せるものではありません。各種補助事業はありますが、概ね短期的な補助ばかりで、5年・10年にわたる維持管理に関する補助がないため、今後、長期にわたる維持管理に関する補助を検討していきたいと考えています。